

令和6年生駒市教育委員会第1回定例会会議録

1 日 時 令和6年1月22日(月) 午前9時30分～午前11時00分

2 場 所 生駒市役所 大会議室

3 審査事項

- (1) 報告第1号 令和5年生駒市議会第5回(12月)定例会提出議案の結果について
- (2) 議案第1号 生駒南小学校・生駒南中学校整備事業基本構想の策定について
- (3) 議案第2号 令和6年度生駒市学校教育の目標について
- (4) 議案第3号 生駒市立小学校及び中学校教職員の管理職人事について

4 教育委員会出席者

教育長	原 井 葉 子		
委員(教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委 員	レイノルズあい
委員	中 川 義 三	委 員	吉 尾 典 子

5 事務局職員出席者

教育こども部長	鋤 田 明 年	生涯学習部長	八 重 史 子
教育こども部次長	松 田 悟	教育総務課長	山 本 英 樹
教育総務課課長	松 本 芳 樹	教育指導課長	花 山 浩 一
幼保こども園課長	大 畑 勝 士	幼保こども園課指導主事	湯 川 祐美子
幼保こども園課指導主事	喜 多 美枝子	こども総務課長	武 元 一 真
子育て支援総合センター所長	角 井 智 穂	生涯学習課長	清 水 紀 子
図書館長	西 野 貴 子	図書館課課長	錦 好 見
スポーツ振興課長	西 政 仁	教育総務課課長補佐	桐 坂 昇 司
教育指導課課長補佐	中 田 博 久	教育政策室長	日 高 興 人
こどもサポートセンター所長	若 狹 美登里	図書館南分館長	谷 江 真美子
生駒駅前図書室長	入 井 知 子	教育総務課(書記)	佐 竹 裕 介
教育総務課(書記)	吉 川 優 香		

6 傍聴者 1名

午前9時30分 開会

○開会宣告

○日程第1 議席の指定について

○日程第2 前回会議録の承認

○日程第3 教育長報告

○日程第4 報告第1号 令和5年生駒市議会第5回（12月）定例会提出議案の結果について

・令和5年生駒市議会第5回（12月）定例会提出議案の結果について、山本教育総務課長から説明

<参照：議案書p1～2>

（質疑）なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第5 議案第1号 生駒南小学校・生駒南中学校整備事業基本構想の策定について

・生駒南小学校・生駒南中学校整備事業基本構想の策定について、山本教育総務課長から説明

<参照：議案書p3、別冊1>

（質疑）

吉尾委員：事前に資料を確認し、大変楽しみであると思った。まず「1はじめに」の中頃、『子どもたちが「学び合い、高まり合える」環境』という部分が、非常に腑に落ちた。これが新しい形の小中学校をつくる一つの目標になると思う。子どもたちや地域の方・保護者も含めて、学び合い、高まり合えるということを大きく打ち出してほしい。この言葉が考えを共有できる一つのキーワードになるのではないかとも思う。次に、歴史や実態を詳細に記載しているところが良いと思った。私達は「これからの学びを実現する生駒南小・中学校の施設整備を考える会議」に参加していないが、会議中のディスカッションの内容を拝見し、今後非常に大きく影響してくるのだろうと感心している。この内容は南小学校・中学校だけの問題ではなく、生駒市全体の教育の一つの足がかりや基礎になる部分だと思うので、生駒市の幼・保・小・中・保護者・地域の全員が関わってくれるような情報発信も大事だと思う。

飯島委員：丁寧に資料を作成いただき、非常に見やすく分かりやすいと思った。改めて南小中の歴史を顧みてみると、南小学校は10年ほど前に創立140周年を迎えている。教育大綱の策定の会議の際にも、学制150年という言葉が出たが、これは非常に貴重でかけがえのないことである。ただ統合という形で決着させるのではなく、これまでの歴史や伝統を今後も長きに渡って繋げていくためにも、過去の歴史を顧みることは非常に重要なことだと思う。特に今後は子どもたちの数が減っていく。14ページの真ん中に「時代の変化にも柔軟に対応できる、これまでの学校にはない新しい視点を取り入れた学校」と記載があるが、これまでの知恵・経験では対応できないことも起こるだろう。新しい発想や視点を取り入れることで、学校を存続させ、それを他の学校の範としていきたいという、決意表明のようなものとしてこの考え方・文章を受け止めさせてもらった。この取り組みは、後ろ向きではなく、前向きでなければならないと思っている。人数が減った学校をどうしようかということではなく、今後変わっていく社会に対してどのような学校像を提案するかという視点で考えるべきである。その意味では、この南小中の取り組みが、今後の生駒市の他の学校の範となるべきものだと位置づけ、今後ともよろしくお願ひしたい。

原井教育長：14ページのご指摘の箇所は、地域や保護者との会議での総意である。オレンジで囲んでいる部分は、ワークショップでの意見を踏まえ、新しい学校作りのための視点として教育委員会の方から提示させてもらった内容だ。

イルズ委員：今までの流れを上手くまとめていただき、未来に向けて期待を高めてくれるような学校ができるのではないかと感じた。特に会議をまとめたグラフィックレコーディングは、非常に期待にあふれる内容だと感じた。最後に生駒南小学校・生駒南中学校についての話題をしてからしばらく時間が経っていたので経過が気になっていたが、今後市内で小中一貫を進めていく中で、施設一体型ということを前提に小中の今後の建て替えをまとめさせていただき、それ以降このような会議を続けてもらい、地域の方々の声を拾い上げる機会を設けていただき非常に嬉しく思う。今後もそういった機会は続けていくと思うが、具体的な基本構想の案が出るときに、不安の声もあると思う。それにしっかりと答えていく責任があるので引き続きよろしくお願ひしたい。また、17ページについて、調整区域拡大案と整備スケジュールは別々に進むものと思っていたが、それぞれのスケジュールを教えてほしい。加えて、今年の流れの詳細を教えてほしい。

山本課長：基本構想は今年度中に決めたい。それを受けて来年度に基本計画を作成し、基本設計・実施設計を進めていきたい。実施設計ができれば、工事に入っていくことになる。校区の件については、基本計画・基本設計を行う令和7年度あたりからと考えている。希望する子どもの数がある程度見込める時期でないと学校の規模感が掴みにくいため、課員レベルでそのような話

し合いをしているところだ。準備でき次第、先行して校区の見直しをしても良いのではないかと考えている。

原井教育長：見直しというのは自由選択校区にしたときに、どれだけの方がどちらの学校を希望するかの調査ということか。レイノルズ委員から質問のあった今後の詳細な予定はどうか。

山本課長：具体的にどのように実施していくかは検討中である。先行して進めることも一つの方法だと思うし、意向調査をしてみても良いと思う。ただ意向調査をすると、早く実施してほしいという声が多く上がってくるのが予測されるので、その場合は慎重かつスピーディーに実施する必要があると考えている。

原井教育長：調整区域拡大案は、今の段階では案である。これを決定していく上で、現状この案に相当する校区の方々への意向調査も含めて、基本計画が出た令和7年度あたりに実施をしていくと考えている。

山本課長：2月にもう1度地元との会議がある。その会議を経て、2月定例会にて基本構想を決めてもらえればありがたい。そうすることで、早い段階で地域へ構想を説明できると考えている。

レイノルズ委員：会議のテーマについて、1回目が「思い出の共有編」、2回目が「未来の学びの共有編」であるが、2月9日に予定されている会議のテーマを教えてください。

山本課長：前2回を受け、教育委員会事務局で14ページのオレンジ色の枠の部分を決めた。これはあくまでも事務局でまとめたものであるため、2月の会議にて地元の方や教職員に内容を見ていただき、もう少し意見が膨らむ可能性もある。

レイノルズ委員：是非膨らませていければと思う。令和6年度は基本計画をより具体的にしていくということであるが、これまで、「どういう施設を作りたいか」は「どういう教育をしたいか」ということと深く結びつくという議論を何度かした。小中一貫を進めていくに当たり、どういう施設がふさわしいのかという観点で丁寧に進めていく必要がある。また地域の方も含め、様々な先進例を勉強する機会をつくり、皆の議論をより深めていければと思っている。また、調整区域については早ければ令和7年度からということに理解した。また、現在の調整区域の紫色の部分で、明らかに生駒南中学校の方が近いにも関わらず、調整区域になっている部分がある。これまでの経緯が知りたい。この辺りが今後も調整区域である必要があるのかと思うところがあり、今後広げる場所と現在の調整区域の設定、併せて経緯も教えてください。

山本課長：学校区は町ごとで設定している。この紫色の調整区域は小瀬町であり、おっしゃるとおり明らかに生駒南中学校の方が近いのに通学できない地域になっている。それを考慮し、希望すれば南中を選択できる調整区域にしている。

原井教育長：校区は町での割り振りが基本になる。中学校は東西で分かれており、小学校は南北で分かれている場合が多い。この校区のラインの基準が線路か川かは定かでないが、生駒南中学校の方が近い地域については調整区域にしている。ただ、調整区域にしているとしても大瀬中へ通学する方も多い。今年度の予定は、2月9日の第3回の会議で地域の方に案への意見をもらった上で、次回の2月定例会で最終決定したい。その決定した内容を3月の初旬に地域の方に説明する機会を持つ予定である。なお、別冊1の中身について、現時点では13ページの第2回までの記載で終わっているが、2月9日の第3回の会議についても終わり次第同じように記載してよいか。

(異議なし)

中川委員：皆さんの意見をまとめていくために、会議の機会を3回も持ち、地元の方に寄り添い、内容を説明していけば、分かってもらえるのだなと思った。事務局の方々の準備と方向性の持ち方の良さを大変痛感している。引き続き、地元理解され、喜ばれるような形で進めてほしい。歴史を振り返ると、ここが多くの子が学びたい人が集まった行基さんの起こした竹林寺の始まりということで、今の土地に来てからも学びたい村の子どもたちが多くやってきたところである。そしてこれから新しい校舎を建てていくということで、引き続き地域の学びの中心地として人が集まる施設を作ろうとしている。大変だとは思いますが、新しい学びの中心地を作っていくという誇りを持ち、今後ともこのような丁寧な進め方で地元で喜ばれる施設を作ってもらいたい。

吉尾委員：10ページのまとめの「一貫校はあくまでも手段であることを念頭に置き」という記載は、非常に大事だと思う。小中一貫校という言葉では、小学校と中学校が1つになるということだけに目がいってしまう。しかしこれはあくまでも一つの手段であるということ意識するのは大事だと思う。建物はあくまでも子どもたちが集う一つの場所である。南地区全てが学校であり、子どもの学びの場だけでなく、大人にとっても学びの場だと捉えたいと思っている。消防署や図書館、コミセン、生駒山、子ども園や竹林寺のような歴史的に大事なものもあり、それら全てを一つの学びの場だと捉えてもらえたら嬉しい。また、調整区域を考えていくにあたり、子どもたちが安全安心に通える通学路も非常に重要であると思うので、通学路も含めて、考えていきたい。

原井教育長：吉尾委員の意見は地域からも痛切に出ている意見で、やはり子どもたちにとっての学びの場であるとともに、地域にとっても学びと交流の場になるという思いを持って学校作りをしていくという共通理解をしているところだ。2月9日開催の第3回会議での地域や保護者の方々からの意見も加筆しながら、次回2月定例会で最終案を提案し、そこでまた意見をもらいながら最終決定していく。

審議結果 【継続審議】

○日程第6 議案第2号 令和6年度生駒市学校教育の目標について

・令和6年度生駒市学校教育の目標について、花山教育指導課長から説明

<参照：議案書p4>

(質疑)

レイルズ委員：大きく変わっている部分について見ていきたい。まず「生駒市学校教育の目標について」の4段落目について、実際に今取り組んでいる内容がより分かりやすく反映された内容に書き換えられている。この文章の表現の部分でいくつか気になる点があったので少し検討してほしい。1つは繰り返しが多い点である。例えば、1行目の後半「デジタル技術を活用しながら自分のペースで自分らしく主体的に楽しく学ぶことができる」と、5行目「安心して自分らしく学べる心理的安全性の高い学校づくり」において、「自分らしく学ぶ」が伝えたい点だとは思いますが、「心理的安全性の高い学校づくり」とまとめてしまっても良いと思う。また、文章の終わり方が全て「推進しています」や「推進しているところです」となっている。間違えてはいないが、「取り組みを進めています」等でももう少し違う表現を使用する方が文章としてより魅力的だと思う。一旦このページに関しては以上だ。

飯島委員：1ページ「<生駒市学校教育の目標>」の図について、昨年度と比較し言葉を削って分かりやすく作り直してもらったと思うが、視覚的に若干物足りなく見える。一番下の根っこ部分について、前年度にオレンジ色で書かれていた部分の形を変えて掲げてもらうことで、図としては見やすくなったが、それに向けて具体的に何をしたらいいのかの記載が無い。骨組・幹のみにしたことで、それぞれの学校に教育目標を作ってもらう上で手がかりになるキーワードが削られてしまった印象を受ける。全てそのまま復活させてしまっただけでは、せっかく見やすくしてもらった意味がなくなってしまうので、それぞれの学校が教育目標を作成する際に取り込んでもらえるようなキーワードだけでも残した形にさせていただくよう検討をお願いしたい。

吉尾委員：「<生駒市学校教育の目標>」のご指摘の箇所について、私はすごく良いと思った。下の2つについての私の捉え方は、先生方をサポートする管理職や、教育委員会事務局の体制を示している箇所だと思う。前年度は三角で支えているような図だった。この方向性で学校運営の整備をするから、この目標で頑張ってもらいたいという風に捉えてはどうかと思っている。確かにもう少し具体的な内容があっても良いかとは思いますが、私はそのように捉えている。また、2ページ以降「具体的な取組」が挙がっているが、図が簡素化したことで逆に内容が入りやすくなったと感じた。恐らく現場の先生方も同じではないかと思う。次に「安全で信頼される園・学校づくりの

重点課題」について、重点課題を踏まえてその後の各校園の取り組みになると思ったが、どの課題がどの取り組みに合致するのかということが分かりにくく、違和感があった。もう1度見直し、1ページの土台の部分の詳細として「安全で信頼される園・学校づくりの重点課題」が独立しているとしたら納得した。例えば、学校・園で一番大事な「主体的対話的で深い学びの実現」が、ここには挙がっていなかったのが疑問に思ったが、サポート側の課題として捉えれば、納得できると思った。ただ、これをもらった方は、「重点課題」と「取組」は一つの流れとして捉えると思う。そのためできれば、「重点課題」を「具体的な取組」という名前に変えてはどうか。そうすることで、「安全で信頼される園・学校づくり」としての取組と、「子どもたちへの教育」としての取組を別のものとして捉えることができるのではないか。次に「安全で信頼される園・学校づくりの重点課題」の3つ目「人事評価結果を踏まえた」とあるが、教育力向上の研修に人事評価を付ける必要はあるのか疑問である。評価のために研修があるように捉えられると良くないと思う。最後に、小学校や中学校の具体的な取り組みが、小中一貫を意識していると理解したが、それぞれの発達段階や年齢に合わせて、小学校から中学校への流れを意識してもらっていると思う。追加で修正案があれば、後日メールでお伝えたい。

原井教育長：飯島委員の方からご指摘いただいた1ページの一番下の部分について、フォントや色、具体的なキーワードを残すかどうかをもう少し検討していきたい。吉尾委員からご指摘をいただいた重点課題については、幼稚園・こども園、小・中学校での課題をまとめて提示し、それを受けてそれぞれの具体的な取り組みを記載している。また、「人事評価結果を踏まえた」という部分については、職員の自己申告シートの中に自分がどんな研修を受けたいか、それによってどんな力を高めたいかという項目があるため、このような記載をしていたが、削除も検討したい。また具体的な提案等は、この後1週間ほど期間を置いてメールで意見をもらうということで次回に継続したい。

中川委員：すっきりまとめてもらえたと思う。小・中学校に在籍していた際、「学校教育の目標」を中心にして先生方と共有することが多く、大切なことを上手く簡潔にまとめてもらいたい。1点、3ページ4ページの①「学習者を主体として、他者との協働や課題解決型学習などを通じ、深い学習を体験し、自ら思考することを重視する教育を推進する。」において、課題解決学習というと、そこにある課題を1つずつ解決していくような、課題を積み上げて子どもたちを一定の水準にするというような学習を指していたことが多い。問題解決学習だと、「子どもたちが自分たちの考えやそういうところからいろんな問題を見つけて、やっていく」という今の生駒市の学習にも通じるような意味合いになる。課題解決型学習という言葉

出すなら説明が必要だと思う。今まで使っていた「問題解決的な学習や課題探究型の学習など」に変えた方が分かりやすいと私は感じる。その辺りは事務局や教育長も学校教育に関わっていたので、分かりやすい形を検討してほしい。課題解決というと系統学習を思い浮かべてしまう年配の方もいるので少し考えてもらえたらと思う。

原井教育長：おっしゃるとおりで、課題解決学習という表現は誤解を与える可能性があるので、自ら課題を見つけて探求するという課題探究型の学習形態等で固定されないような表現を工夫していきたい。趣旨としては、一斉授業の際に教員から一方的な学びを受けるのではなく、双方向で主体的に学ぶ授業のあり方に変えていくということである。学校現場でも取り組もうとする先生が増えてきており、やり方は多様であるので、そういうところに繋がるような表現をしたい。

レィルス委員：冒頭の教育長の言葉で、前回までは地域に開かれた学校運営として学校運営協議会や地域学校協働活動の取り組みについて優先順位を高く掲げて、必ず含めるように意識していた気がする。今回その記載がなくなっているが、これは基本体制として十分に馴染んでいるから外したのか、もしくは継続して取り組んでいることとして記載した方が良いのか、検討してほしい。個人的には、まだまだ継続して発展させていくべきだと思うので、何か一文があっても良いのではないかと思った。次に1ページ目真ん中の「多様性を認め、尊重して行動できる態度の養成」の2番目「いじめを決してゆるさない態度と、社会の中で自分らしく生きることが出来る存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支援します。」の部分と、3ページと4ページ⑥「児童が自発的・主体的に自らを発達させていくことを尊重し、その過程を学校や教職員が支える発達支持的生徒指導を重視していく。」の部分で、「発達支持的生徒指導」について、馴染みのない表現だったので考え方を教えてほしい。

花山課長：1点目のコミュニティスクールや学校運営協議会については、全校で学校協議会が設置され、コミュニティスクールがスタートし、交流しながら活動を進めているところだ。教育長の言葉には記載がないが、2ページ目の「安全で信頼される園・学校づくりの重点課題」の一番上のところには記載している。2点目の「発達支持的生徒指導」については、今年の12月に改訂された生徒指導提要に記載されている考えである。いじめ自体をまず許さない環境を子どもたち自身にも育てていくということ、また、生徒指導ではなく子どもたちを支援するというような考え方が書かれている。

レィルス委員：いじめ防止と子どもたちの発達の支援が繋がるという考え方が最近あるということで、教えてもらいたい。まだ新しく馴染みがないという方にも分かりやすい表現にしてもらえるとより良いと思う。検討してほしい。

原井教育長：生徒指導提要が出たときには、校長会・教頭会で研修をしている。先生が指導するという考え方ではなくて、教育相談として子どもたちに寄り添い、子どもたちの意識や態度を変えていくという考え方だ。いじめに関しては、集団を育て、そこから解決していくという流れになってきている。誰が読んでも分かるような形にしておくべきなので表現は検討する。

吉尾委員：1ページ「挑戦を続けるたくましい心身の育成」の2つ目の○「スポーツを楽しみ、健康でたくましい体を育成します。」について、「心」も入れてほしい。後の具体的な取組にも出てくるが、心と体は一体であり、スポーツは諦めない心や挑戦していく心に繋がっていくと思う。細かい文言は私も考えていきたい。

審議結果 【継続審議】

○日程第7 その他

・令和6年2月行事予定について、山本教育総務課長、清水生涯学習課長から説明（質疑）なし

・ご意見

レィルズ委員：メールで資料として送ってもらった「これからの教育委員会のあるべき姿について」の動画と資料を拝見させてもらい、感じたことを共有したい。生駒市の教育委員会として、すごく先進的に進められている部分と、まだまだできる部分と様々である。1つ希望があり共有したい。以前コロナ前になると思うが教育委員会を学校現場でやったことがあったと思う。教育委員会の定例会等を地域で行うことで、地域に開かれた会議にしてはどうかと考えている。現在もオンラインで公開してもらい開かれた状態になっていると思うが、現地に足を運ぶことやオンラインで見ることが難しいケースもあると思うので、年に何回かでも地域に出て行って開催することも検討できるのではないかと思った。それ以外にも教育委員として私も勉強不足なところが多々あると毎回感じている。議題に対する勉強会や今回質問した「発達支持的生徒指導」の部分について等、新しいことを勉強させてもらう機会が少しあればと考えている。検討をお願いしたい。

原井教育長：非常に前向きな提案でありがたい。開催場所や委員の皆様方の勉強会については、事務局の方で検討し、提案させてもらいたい。

○日程第8 議案第3号 生駒市立小学校及び中学校教職員の管理職人事について

・生駒市立小学校及び中学校教職員の管理職人事について、原井教育長から説明
<参照：議案書p5、別紙（非公開）>

◀ 個人情報を含むため、質疑内容は非公開 ▶

審議結果 【原案のとおり可決】

○閉会宣告

午前 11時00分 閉会